

経済指標ウォッチャー

米小売売上高 旺盛な個人消費意欲が示される

小売売上高は2020年5月以降5カ月連続で増加

小売売上高とは？

百貨店やスーパーなどの小売・サービス業の月間売上高について、サンプル調査をベースにした景気関連の経済指標（耐久財と非耐久財に大別）。消費者が商品購入にどれだけお金を使ったかが分かる。個人消費はGDP（国内総生産）の中でも大きな割合を占めることが多いため、個人消費のトレンドや景気の良し悪しを判断するためにも重要視される。

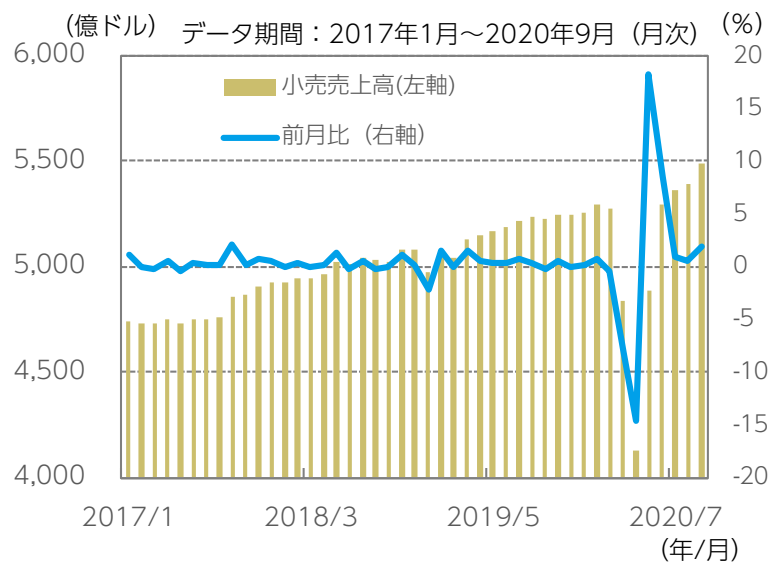
2020年9月小売売上高は市場予想を上回る

米商務省が16日発表した9月の全米の小売売上高（季節調整済み）は5,492億ドルで、前月比1.9%増となりました（図表1）。事前予想（同0.7%増）を大きく上回り5カ月連続の増加となりました。4カ月連続で新型コロナウイルス感染拡大前の2月の水準（5,272億ドル）を上回る結果となり、個人消費意欲の旺盛さが示されたものと思われます。GDP（国内総生産）を算出する際の個人消費の構成要素に近いと言われる、比較的価格変動の大きい自動車・ガソリン・建設資材・食品サービスを除くコア小売売上高も同1.4%増と良好な結果となっています。

追加経済対策が遅れば消費に悪影響も

個人消費意欲が旺盛な背景には、歴史的に高い水準にある貯蓄率（可処分所得に占める貯蓄額の割合）（図表2）が個人消費を下支えしている可能性があるとの声があります。失業給付の上乗せ等の政府による財政支援がない場合でも、当面の間は個人消費が大きく落ち込む可能性は低いものと思われます。ただし、貯蓄を切り崩して消費を続けることは限界があると考えられます。足元では追加経済対策の協議が難航しており、財政刺激策の再開時期が未定であることは今後の個人消費に悪影響を及ぼす可能性がありそうです。

図表1：小売売上高は5カ月連続で増加



図表2：貯蓄率は歴史的に高い水準



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>